

薬物動態解析 1

責任者・コーディネーター	薬物代謝動態学分野 幅野 渉 教授		
担当講座・学科(分野)	薬物代謝動態学分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義 16.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学修方針（講義概要等）

薬物による治療効果や副作用の発現は、個体間や個体内で大きく異なることがある。特に薬物動態の変動が原因となる場合は多いため、これを定量的に評価し、事前に予測することができれば、有効で安全な薬物治療の実施が可能となる。このような理由から、医薬品を開発する研究者や薬物治療を実践する薬剤師は、薬物の血中濃度の推移を解析する薬物速度論の知識と技法を身につけなければならない。本講義では、体内薬物動態の解析技法を修得するために、各種薬物動態パラメータの意義を理解し、それらを用いた計算法を学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

代表的な薬物動態の解析手法である線形コンパートメントモデルにおいて、薬物動態パラメータの意義と活用法を学ぶことにより、適正な薬物治療を実施するために必要な基本知識と技法を修得することができる。
(ディプロマポリシー：2,4)

・到達目標（SBO）

1. 投与された薬物の体内動態を概説できる（839）。
2. 血中濃度を指標とする薬物動態解析の意義を説明できる（839）。
3. 薬物動態の線形性について、消失速度式を用いて説明できる（839）。
4. モデルを用いた薬物動態解析の意義を説明できる（839）。
5. 代表的な薬物動態パラメータの定義および活用法を説明できる（839）。
6. 線形コンパートメントモデルの概念を説明できる（839）。
7. 線形 1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる（840）。
8. 線形 2-コンパートメントモデルにおける薬物動態の特徴を概説できる（☆）。
9. 定常状態の血中濃度を指標とした薬物投与設計ができる（847）。
10. 尿中排泄データを用いた解析ができる（840）。
11. モーメント解析により、関連するパラメータを算出できる（842）。

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/4	木	3	薬物代謝動態学分野	幅野 涉 教授	<p>薬物動態の線形性と1次速度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の消失過程を、速度式を用いて説明できる。 2. 薬物動態の線形性について説明できる。 <p>【ICT (moodle)】</p> <p>事前学修：配布した授業資料の内容を予習し、疑問点を整理しておくこと。 事後学修：授業および授業後の復習では、演習問題を解いて自分の理解度を確認すること。</p>
4/18	木	3	薬物代謝動態学分野	幅野 涉 教授	<p>線形1-コンパートメントモデル（急速静脈内投与）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モデルを用いた薬物動態解析の意義を説明できる。 2. 線形コンパートメントモデルの概念を説明できる。 3. 線形1-コンパートメントモデルに基づき、急速静脈内投与された薬物の体内動態を解析できる。 <p>【ICT (moodle)】</p> <p>事前学修：配布した授業資料の内容を予習し、疑問点を整理しておくこと。 事後学修：授業および授業後の復習では、演習問題を解いて自分の理解度を確認すること。</p>
4/23	火	3	薬物代謝動態学分野	幅野 涉 教授	<p>薬物動態パラメータ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な薬物動態パラメータを列挙し、定義を説明できる。 2. 代表的な薬物動態パラメータの活用法を説明できる。 <p>【ICT (moodle)】</p> <p>事前学修：配布した授業資料の内容を予習し、疑問点を整理しておくこと。 事後学修：授業および授業後の復習では、演習問題を解いて自分の理解度を確認すること。</p>
4/25	木	3	薬物代謝動態学分野	幅野 涉 教授	<p>線形1-コンパートメントモデル（グラフ作成と計算）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 急速静脈内投与後の血中薬物濃度データを用いてグラフを作成できる。 2. 作成したグラフから薬物動態パラメータを算出できる。 <p>【ICT (moodle)】</p>

					<p>事前学修：配布した授業資料の内容を予習し、疑問点を整理しておくこと。 事後学修：授業および授業後の復習では、演習問題を解いて自分の理解度を確認すること。</p>
5/2	木	3	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	<p>線形 1-コンパートメントモデル（演習）</p> <p>1. 線形 1-コンパートメントモデルに基づき、急速静脈内投与された薬物の体内動態を解析できる。</p> <p>【ICT (moodle)】</p> <p>事前学修：配布した授業資料の内容を予習し、疑問点を整理しておくこと。 事後学修：授業および授業後の復習では、演習問題を解いて自分の理解度を確認すること。</p>
5/14	火	1	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	<p>中間試験</p> <p>1. 第 1～5 回までの講義内容に関する試験問題を解くことで理解度を確認できる。</p> <p>事前学修：これまでの講義内容を復習し、演習問題を解いておくこと。 事後学修：試験問題の解答解説を確認し、理解が不十分なところを把握して定期試験に備える。</p>
5/23	木	3	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	<p>線形 1-コンパートメントモデル（定速静脈内投与）</p> <p>1. 線形 1-コンパートメントモデルに基づき、定速静脈内投与された薬物の体内動態を解析できる。</p> <p>2. 血中薬物濃度が定常状態を示す理由を、速度式を用いて説明できる。</p> <p>【ICT (moodle)】</p> <p>事前学修：配布した授業資料の内容を予習し、疑問点を整理しておくこと。 事後学修：授業および授業後の復習では、演習問題を解いて自分の理解度を確認すること。</p>
5/30	木	3	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	<p>線形 1-コンパートメントモデル（経口投与）</p> <p>1. 線形 1-コンパートメントモデルに基づき、経口投与された薬物の体内動態を解析できる。</p> <p>2. バイオアベイラビリティの定義および活用法を説明できる。</p> <p>【ICT (moodle)】</p>

					<p>事前学修：配布した授業資料の内容を予習し、疑問点を整理しておくこと。 事後学修：授業および授業後の復習では、演習問題を解いて自分の理解度を確認すること。</p>
6/7	金	3	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	<p>線形 1-コンパートメントモデル（繰り返し投与）</p> <ol style="list-style-type: none"> 線形 1-コンパートメントモデルに基づき、繰り返し投与された薬物の体内動態を解析できる。 定常状態の血中薬物濃度を指標とした投与設計の技法を説明できる。 <p>【ICT (moodle)】</p> <p>事前学修：配布した授業資料の内容を予習し、疑問点を整理しておくこと。 事後学修：授業および授業後の復習では、演習問題を解いて自分の理解度を確認すること。</p>
6/18	火	3	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	<p>線形 1-コンパートメントモデル（尿中排泄データの解析）</p> <ol style="list-style-type: none"> 尿中排泄された薬物を解析することの意義を説明できる。 線形 1-コンパートメントモデルに基づき、尿中排泄データの解析ができる。 <p>線形 2-コンパートメントモデル</p> <ol style="list-style-type: none"> 2-コンパートメントモデルについて概説できる。 <p>【ICT (moodle)】</p> <p>事前学修：配布した授業資料の内容を予習し、疑問点を整理しておくこと。 事後学修：授業および授業後の復習では、演習問題を解いて自分の理解度を確認すること。</p>
6/25	火	3	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	<p>モデル非依存性薬物動態解析（モーメント解析）</p> <ol style="list-style-type: none"> モデルに依存しない薬物動態解析法の特長を説明できる。 モーメント解析に基づき、関連するパラメータ（平均滞留時間、平均吸収時間など）を算出できる。 <p>【ICT (moodle)】</p> <p>事前学修：配布した授業資料の内容を予習し、疑問点を整理しておくこと。 事後学修：授業および授業後の復習では、演習問題を解いて自分の理解度を確認すること。</p>

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	コンパス 生物薬剤学 改訂第3版	岩城正宏、尾上誠良 編	南江堂	2021
参	臨床薬物動態学—臨床薬理学・薬物療法の基礎として 改訂第5版	加藤 隆一（監修）	南江堂	2017

・成績評価方法

中間試験（30%）、定期試験（70%）により総合的に評価する。

・特記事項・その他

第1回の授業前に講義資料をまとめて配布する（配布については掲示する）。授業の前にテキストに指定されたページを必ず予習しておくこと。授業ではさらに演習問題を解くことで、自分の理解度を確認できる。復習の際はこれらを活用し、暗記に頼らず道筋をたてて理解することが重要である。これらの学修のためには、事前に30分、事後に30分程度の時間を要する。さらに、中間試験と定期試験前にはそれぞれ4時間と8時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。中間試験後には解答解説により理解が不十分なところを学習すること。定期試験後の補講では、試験問題の解説講義を行うので受講すること。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	iPad Air	1	講義資料の映写のため